

日印交雑水稲品種の生育特性と多収栽培法

今林惣一郎・真鍋尚義・古城齊一 (福岡県農業総合試験場)

Souichiro IMABAYASHI, Hisayoshi MANABE and Seiichi KOJO : The Growth and High-Yielding Culture of Japonica-Indica Hybrid Rice

日印交雑水稲品種の多収性が各地で実証されているが、一方では耐冷性が劣ることにより登熟時の葉の黄化、枯上り、あるいは耐病害虫抵抗性等の問題点が指摘されている。

筆者らは、日印交雑水稲品種の本県での適応性と多収栽培法を明らかにするため、すでに多収性が実証されている数種の品種を用いて、場内および現地において、移植時期、施肥法、水管理技術等について検討したので、その概要を報告する。

1. 試験方法

1980年筑紫野市上古賀(田農業試験場水田), 1981年~1983年筑紫野市吉木第Ⅲ水田で実施した。供試圃場は花こう岩質砂壤土, 生産力中位。供試品種はトヨタマを比較品種として5品種(第1図に記載)。移植時期は3時期, 施肥法は2~3水準(いずれも第1表に記載)。水管理(1983年のみ実施)は標準と中干し後間断かんがい区の2水準を設けた。苗は三葉苗を用い, その他は標準栽培法で実施した。試験の規模は1区20㎡以上, 2反復。なお, 現地試験は1981年~1982年6ヵ所, 1983年2ヵ所で実施した。供試品種は場内で供試した品種のほかにアルポリオ(1981年のみ)を加えた。施肥法は場内試験に準じて行ったが, 移植時期(6月中旬~6月下旬)やその他の栽培法は現地の慣行に従った。1区0.5a以上, 2反復。

2. 結果および考察

1) 供試品種の生育特性と本県における適応性

水原258号: 中生の晩, 穂重型, 極短程で倒伏に強く, トヨタマに比べて, 1穂粒数, ㎡当たり総粒数が多く場内試験で最も多収であった。しかし, 移植時期が遅い現地では, 低温による登熟不良のほかに, 土壌の過乾, 過湿, 異常還元等の不良条件下に対する適応性が低いため, 多収性を十分に発揮することができなかった(第1図)。

そのほか極短程でコンバイン収穫が困難であること, いもち病抵抗性が小さいこと等の問題が残されており, 標準移植期の範囲内では普及性はないと判断される。

アケノホシ: 早生の晩, 穂重型, 稈は太く, 1茎当たりの生育は良好であるが, 耐倒伏性がやや劣ることや紋枯病の発生が多く, 成熟ムラがある等の問題がある。

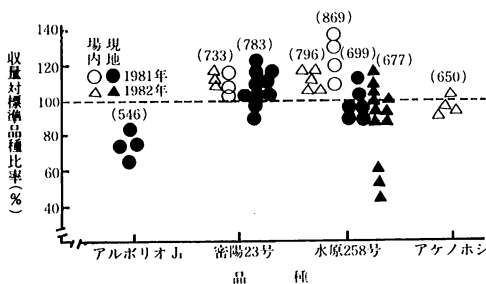
早生種でありながらトヨタマに近い収量性があるので, 早生種の多収品種として有望である。

その他の供試品種: アルポリオは穂数が少なく, 倒伏弱で低収。来歳は他の品種に比べて, 低温による不受精粒が多発。密陽23号は多収であるが, 脱粒性極易, 耐病虫抵抗性小, 成熟期頃の挫折倒伏がひどくなる等の欠点があり, 本県での普及性はいずれの品種もないと判断された。なお, 穀実用品種として供試した台農67号は長程で耐倒伏性に難点があり普及性は同様にないと判断された。しかし, 1茎当たりの生育が旺盛で, 黄熟期の全重は供試品種の中で最も重いことから, ホールクロップサイレージ用品種として適していると考えられる。

2) 水原258号, アケノホシの多収栽培法

水原258号: 多収栽培条件として, 移植時期は5月20日植では穂数増の効果はみられるが, 過繁茂となり病害虫が多発すること, 一方6月20日植では出穂期が遅いため登熟期に低温に遭遇しやすいこと等から6月上旬が適期である。また, 施肥量(窒素成分kg/a)は基肥1.0, 第1回穂肥0.5, 第2回穂肥0.5で十分である(第1表)。さらに, 水管理は中干し後間断かんがいの効果が認められた。

アケノホシ: 水原258号と異なり早植による増収効果は小さく, 多肥で倒伏が助長されることから(第1表), 栽培法として, 移植時期は標準植, 施肥量(窒素成分kg/a)は基肥0.7, 第1回穂肥0.3, 第2回穂肥0.2が適当であると考えられる。



第1図 10a 当たり粗玄米重対標準品種比率

注① 標準品種トヨタマ。()内は10a 当たり粗玄米重

第1表 移植時期・施肥法と収量

年次	品 種	移植時期	施肥法	㎡当たり a 当たり		倒伏程度
				穂 数	玄米重 (kg)	
1982	水原 258 号	5 月 20 日	10-5-5	4 6 7	76.9	無
		6 月 4 日	"	4 1 1	79.3	"
		"	10-5-5-5	3 8 2	77.6	"
1982	アケノホシ	6 月 19 日	10-5-5	3 1 6	69.5	"
		6 月 4 日	10-3-2	3 3 1	65.4	中
		6 月 19 日	"	3 2 2	65.0	少
1983	アケノホシ	6 月 20 日	7-3-2	3 5 7	57.0	中
		"	10-3-2	3 3 7	53.0	甚

注1) 施肥法: 基肥-第1回穂肥-第2回穂肥-実肥。